

都道府県名	石川県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	山中町立山中小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	1	2	2	2	2	2	13	20
児童数	43	40	42	46	45	47	2	265	

研究の概要

1. 研究主題

<p>一人ひとりに学ぶ楽しさと確かな力を ～国語科・算数科を通して～</p>
--

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年生～6年生・算数 児童の理解の状況に差が出やすい教科であるため。 ・ 1年生～3年生・国語 低学年のうちに国語科の基礎基本をしっかり定着させるため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p style="text-align: center;">テーマ 一人ひとりに学ぶ楽しさと確かな力を ～国語科・算数科を通して～</p> <p>研究の見通し 国語科では「聞くこと・話すこと」「書くこと」を中心に授業研究に取り組み児童一人ひとりの表現力を高めていく。算数科では、単元の導入や課題設定、指導法の工夫に取り組み、学ぶ楽しさを知り進んで学習に取り組む児童の育成に努める。</p> <p>研究の内容及び方法 各教科での授業、少人数授業、ドリルタイム等を通して基礎基本の定着を図る。単元の指導計画、指導法の研究を進め実践を通して児童の学ぶ意欲を高める。少人数授業を通して習熟度に応じたきめ細やかな指導を工夫する。評価規準をもとに評価方法を工夫する。全教師が授業を公開し授業改善に努める。</p>
--------	---

平成16年度	<p style="text-align: center;">テーマ 一人ひとりに学ぶ楽しさと確かな力を ～国語科・算数科を通して～</p> <p>研究の見通し 国語科では「聞くこと・話すこと」「書くこと」を中心に授業研究に取り組み児童一人ひとりの言語能力を高めていく。算数科では、単元の導入や課題設定、習熟度別授業における学び合いの工夫を研究・実践することにより、自ら学び、意欲的に取り組む児童の育成に努める。</p> <p>研究の内容及び方法 各教科での授業、少人数授業、ドリルタイム等を通してさらに基礎基本の定着を図る。単元の指導計画、指導法の研究を進め実践を通して児童の学ぶ意欲を高める。児童の学力の習熟状況を把握し、それに基づいて習熟度別授業を実施する単元や学習内容を決定していく。評価規準をもとに本校独自の評価方法のあり方を研究する。教材・教具の作成と活用に努める。全教師が授業を公開し授業改善に努める。</p>
--------	--

(3) 研究推進体制

研究推進委員会は、校長、教頭、学年、級外の代表者で構成し、研究計画の立案、研究の推進にあたる。全員が国語科・算数科部会のいずれかに所属する。確かな基礎基本の力を培い、学ぶ意欲を高めるための教材研究、指導法について協議し、研究授業をする。指導案の検討や授業の整理会は全員で行い共通理解を図る。

平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

今年度研究を進めていく中で次のような成果が見られた。

- ・少人数授業においてコースごとの指導計画・指導法の違いを実践化できた。
- ・少人数授業や読書タイム、漢字や計算の練習、暗唱練習を繰り返すことにより基礎・基本の力がついてきた。
- ・導入や課題設定の工夫をしたことにより、学ぶ楽しさを知り学習意欲に高まりが見られた。
- ・グループ活動や話し合い活動の中で少しずつ自分の考えを話したり、説明したりすることができるようになった。
- ・少人数授業のコース選択にあたり、児童自身が自分の力に合ったコースを選ぶことができるようになった。
- ・評価規準をもとに評価方法を工夫することができた。
- ・少人数指導の打ち合わせを通して、教材をいろいろな角度から研究したり分析したりすることができた。また、教具なども協力して開発することができた。

2. 今後の課題

成果とともに次のような課題も明らかになってきた。

- ・少人数授業において児童の実態をふまえて実施単元を決め、個に応じた支援をさらに進めていく。
- ・習熟度別授業における学び合いの工夫についてさらに研究を深めていく。
- ・子どもたちの学力をどのように評価し指導に生かしていくか実践を深めていく。
- ・自分の考えた事が発表できるように言語の能力の育成に努めていく。
- ・国語科・算数科における基礎・基本をより明確にし、定着させるための効率的な方法を探っていく。
- ・授業改善に努め、一人ひとりの児童の学びたいという意欲を高めていく。
- ・学校便りや授業公開を通して、少人数授業や児童の様子についてさらに保護者に知らせていく。

学力等把握のための学校としての取組

- ・100マス計算の集計から、児童一人ひとりの計算力の実態を把握する。
- ・1年～6年までの漢字カルテと計算カルテを作成し、児童一人ひとりの計算力・漢字力の実態を把握する。
- ・5項目（読書・家庭学習・文字をていねいに書く・挙手発表・聞く）について学期ごとに教師と児童がそれぞれ評価する個人カルテを作成した。
- ・単元ごとに振りかえりカードを作り、学習意欲や理解度を把握し、次時への指導へとつなげていった
- ・理解度を把握するために単元の中にチェックテストを行い、指導に生かしてきた。
- ・6年生で県の基礎学力調査を実施し、その結果を分析する。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

フロンティアスクールとしての研究会開催予定

日 時	2004年11月
場 所	本校
対 象	教職員、保護者
目 的	フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のため

フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動実績

山中町の他の学校への校内研究会の案内と指導案の送付
フロンティアスクールとしての授業公開
学校便り等を通して少人数授業や児童の様子についての保護者への説明

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- | | | | | |
|----------------------|-----------------------------|-------------------|-------------|----------|
| 【新規校・継続校】 | ・15年度からの新規校 | 14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | 6学級以下
・13～18学級
25学級以上 | 7～12学級
19～24学級 | | |
| 【指導体制】 | ・少人数指導
一部教科担任制 | ・T・Tによる指導
その他 | | |
| 【研究教科】 | ・国語
生活
体育 | 社会
音楽
その他 | ・算数
図画工作 | 理科
家庭 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | ・有 | 無 | | |